

【COG2022】ファイナリスト

高梁川歴史探求コンテンツ 「ぶら宇喜多」へのアプローチVer.1

岡山県倉敷市× Kurashiki GIS LABO×まちケア運営チーム

高梁川流域圏の歴史的背景を知り 地域に関心を持つ人を増やすこと

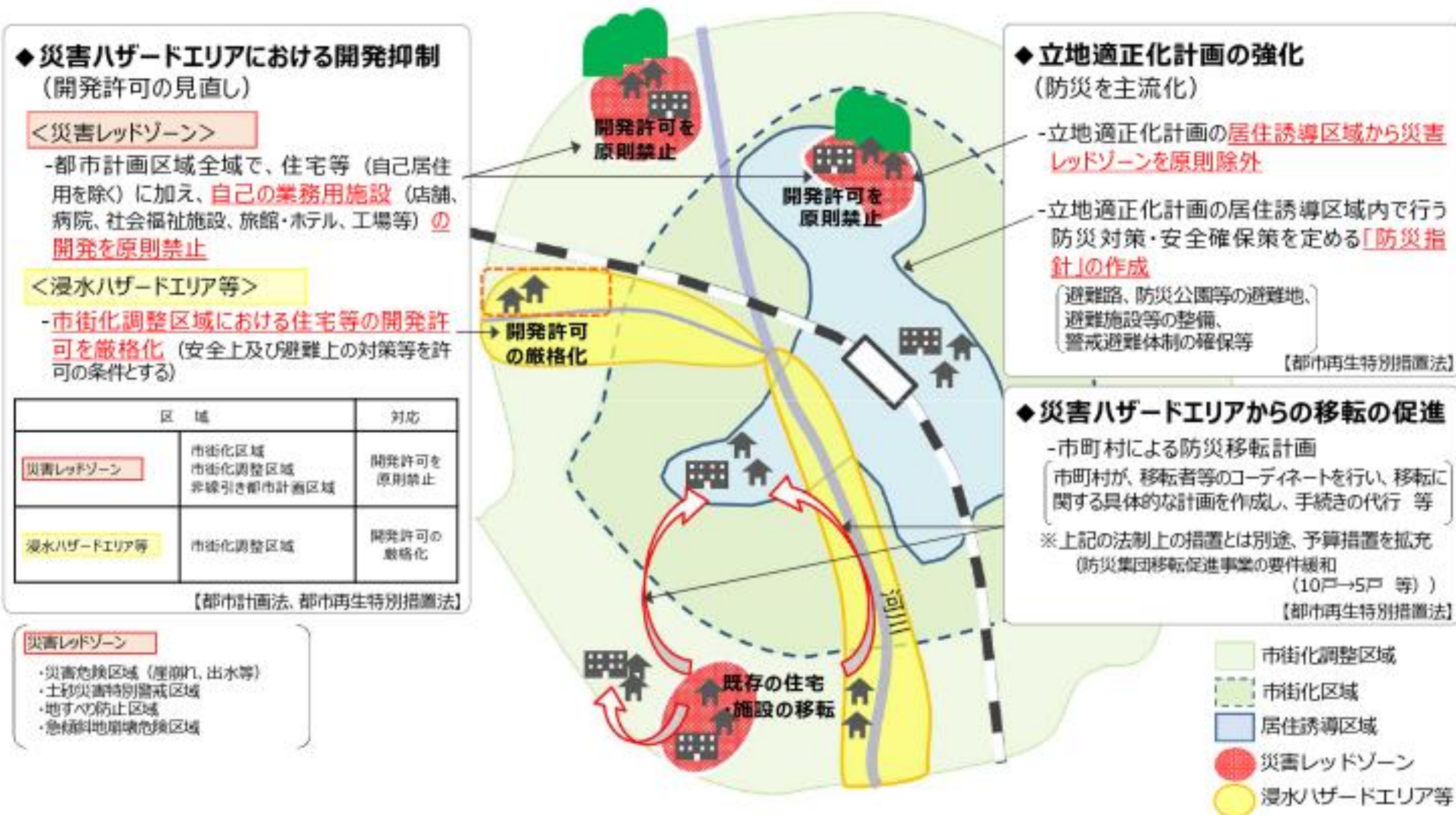
岡山県倉敷市都市計画課



防災と連携した 立地適正化計画

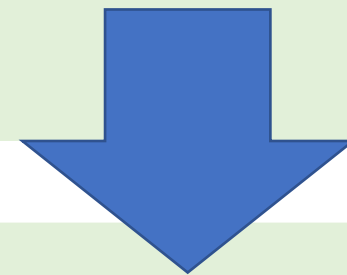
②被害対象を減少させるための対策 ～土地利用規制、誘導、移転促進～

- 頻発・激甚化する自然災害に対応するため、災害ハザードエリアにおける開発抑制、移転の促進、立地適正化計画と防災との連携強化など、安全なまちづくりのための総合的な対策を講じる。



**流域治水とは
激甚化する水災害に備えるため、流域に住むみんながそれぞれにできることに取り組み、
地域の災害を防ごうという考え方**

**まちづくりの方向性や災害リスクの軽減・回避対策を検討するうえで、
まちの歴史的な形成過程の把握が重要**



**高梁川流域圏の歴史的背景を知り、関心を持つ人を増やし、
地域の人々でまちの形成過程を見える化・共有化することは
防災に繋がると考え、アイデアを募集**

真備地区の激甚災害の経験で実感した 歴史的背景を知ることの重要性

岡山県倉敷市真備地区の事例

○岡山県真備町でも、125年前(明治26年)の供養塔が源福寺に設置されていた。



125年前
供養塔の
高さまで浸水



○明治26年(1893年)に起きた水害で、真備町は200人以上が犠牲。

真備地区の激甚災害の経験で実感した 地理空間情報活用スキルの重要性

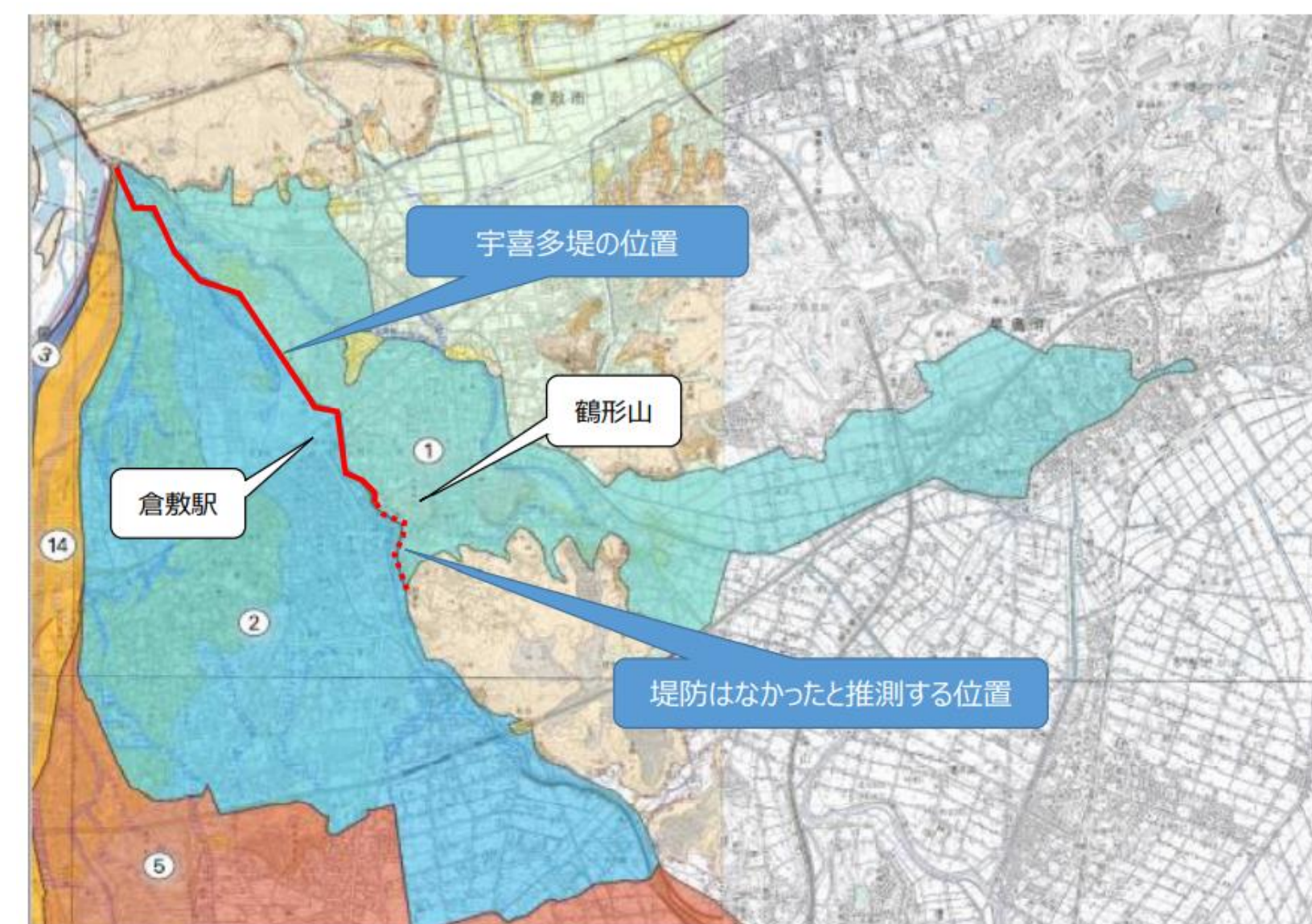
歴史的背景を位置情報と紐づけることで

- 地域の課題やその対応策などを容易に理解でき、意思決定の判断や合意形成の材料として活用できる
- 過去の地理情報は地域や地域コミュニティの成立過程の他、特に災害の歴史を読み解く手掛かりとなり、防災面においても重要

過去と現在を地図でつなぐ教材づくり

歴史資料と現在の地域をつなぐ教材づくりの手順をとりまとめ、
地域の教材コンテンツ開発を支援

- 歴史的史実に基づいた地域の形成史のなかで治水・防災の観点から河川堤防の形成に着目して、「**高梁川流域の16世紀後半の堤防形成**」をテーマに、**プロトタイプ教材**を作成します。
- 古地図など過去の地図情報や文献資料から得られる位置情報を、現地踏査などにより得られた情報を地形図に重ね合わせることにより**歴史検証**を行ったうえで、**古い地図を電子化**して地理情報システムで可視化する手順を整理してまとめます。
- 教材では、GISの基礎知識を解説するとともに、古地図の取り扱いについても触れます。



過去と現在を地図でつなぐ教材づくり

**STEP1. 歴史資料の地図を時系列で並べて、
座標値という現代地図の表現方法の中で情報を比較**

プロトタイプ教材
「ぶら宇喜多」

【利用した歴史資料】

- ・倉敷の干拓（三宅千秋著 昭和51年8月刊行）
- ・岡山県農業土木史（昭和41年3月）
- ・18世紀初頭に描かれた高梁川下流域の領有地や川・道・行政区分といった社会を総合的に表現した総合図「郡拾ヶ村古地図」
- ・流域の農地に水を配水するために作成された灌漑区域図「高梁川東西用水灌漑区域図」
- ・水島コンビナートデジタルデータブック
- ・基本図として、現代の都市計画図（縮尺1/10,000）と国土地理院の国土基本図

様々な資料による宇喜多堤の位置



教材には、古書で歴史的背景を確認し、
古地図を読む作法についても解説が必要



宇喜多堤ってなに？

宇喜多堤は一般的には岡山城藩主宇喜多秀家が児島湾北西岸のために築いた潮止堤防であるといわれています。

天正10年（1582年）の備中高松水攻めの後、秀家は都宇・窪屋・賀陽 3 軍を領有し、同12～13年に秀家は重心の庭瀬城主岡豊前守に命じ、千原民部・同久右衛門らを奉行として、児島湾北西部の都宇（現都窪郡早島町）から倉敷東方にかけて広がっていた干潟の開発を行わせました。

これを一般に宇喜多開墾と呼び、この時に築かれた潮止堤防を宇喜多堤と呼んでいます。

過去と現在を地図でつなぐ教材づくり

STEP.2 実際に現地を歩いて確認

文献および図面などを収集した結果を踏まえ、
5回にわたり現地調査を実施



教材には、現地調査の留意点などについても整理して掲載

プロトタイプ教材 「ぶら宇喜多」

現地確認では、残念ながら宇喜多堤防の位置特定には至りませんでした。。



宇喜多1



宇喜多10



宇喜多11



宇喜多12



宇喜多13



宇喜多14



宇喜多15



宇喜多16



宇喜多17



宇喜多18



宇喜多19



宇喜多2

STEP.3 GISによる位置の検証

※QGIS 地理情報システムの閲覧，編集，分析機能を有するオープンソースソフトウェア・GISソフト

【利用したデータ】

- 図 29 避難区域の指定**

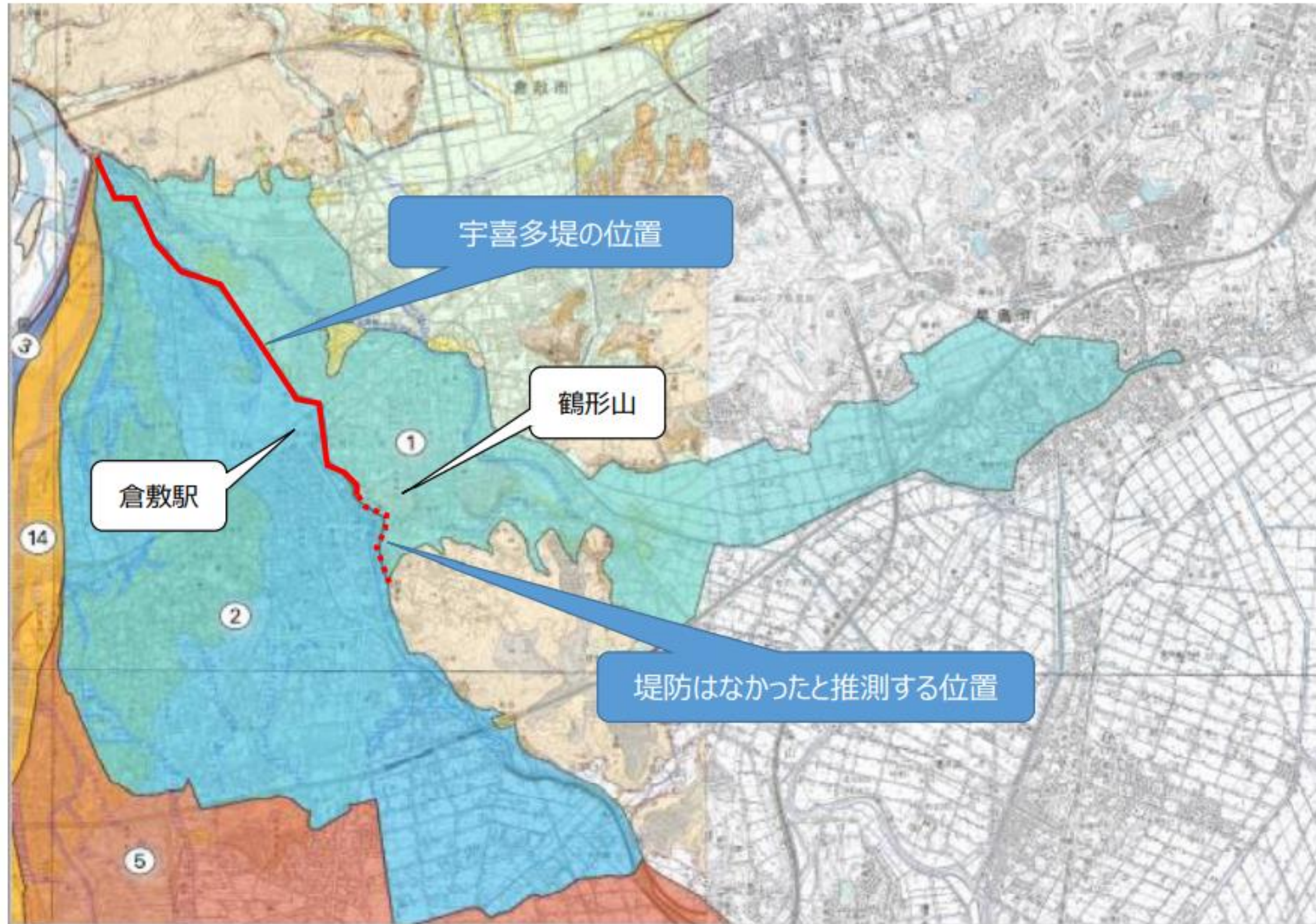
この図は、2011年3月11日の東日本大震災による津波の影響を受けた地域を示しています。図には、避難区域が29のゾーンに区分けされており、各ゾーンは色と番号で識別されます。また、堤防Aと堤防Bの位置も示されています。

右側の表は、各ゾーンの避難区域の名称と、避難にかかる所要時間（分）を示しています。

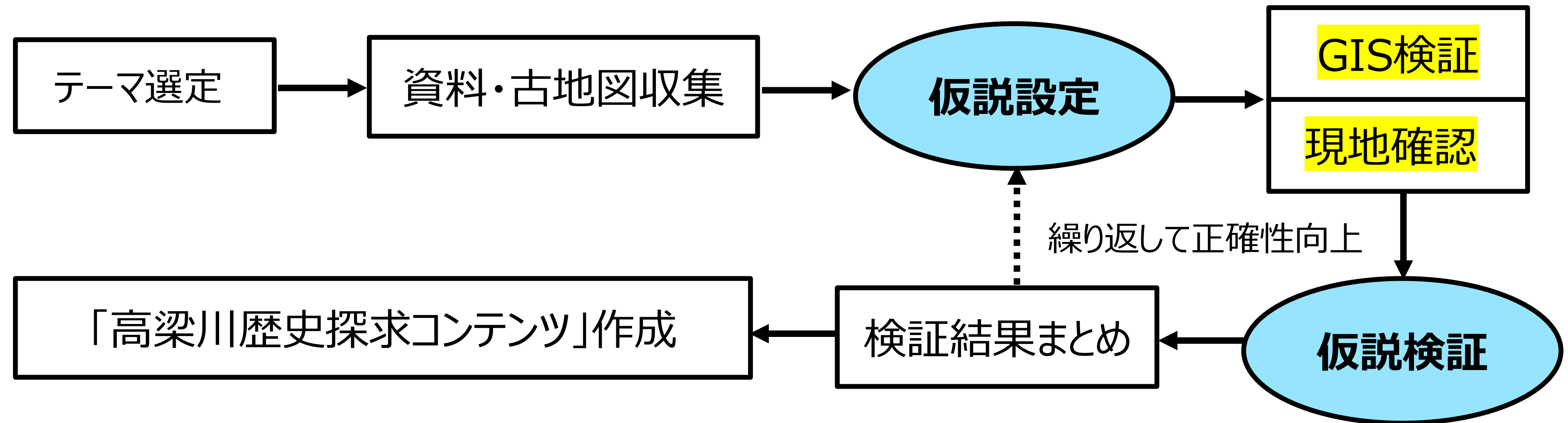
ゾーン番号	避難区域の名称	所要時間（分）
1	地区、宮前、南江、北沢町、巨ノ川町、八幡町、津町、	1595
2	大内、古吉町、川入、石巻町、川西町、稲荷町、南町、	1801～1810
3	西阿知町、西阿知町西側	1624
4	一部）船越町水江、船越町船越、玉島町水江、玉島町上成	1644
5	吉岡、船越、上置井、東置井、西置井、船越、稲井	1529～1610
6	一部）水江、中島、連勝町連勝、連勝町天宮、	1615～1618
7	玉島、玉島中央町、玉島町西側、玉島町西側南側、	1659～1610
8	一部）玉島、玉島、玉島町水江、玉島町上成、玉島町西側	1728
9	連勝、連勝中央、神田	1806
10	一部）亀島、連勝町西側	1845
11	玉島町西側	1864～1810
12	北沢、中沢、南沢、東沢、北江	1852
13	一部）水島、北島、水島町西側、水島町中島、	1910
14	水島町西側、水島町中島、水島町東側、	1910
15	水島町東側、水島町西側、水島町南側、水島町北側、	1921～1910
16	水島町東側、水島町西側、水島町南側、水島町北側、	1910
17	一部）水島、水島町中島、水島町東側、水島町西側、	1910
18	一部）水島、水島町中島、水島町東側、水島町西側、	1910
19	一部）水島、水島町中島、水島町東側、水島町西側、	1910
20	一部）水島、水島町中島、水島町東側、水島町西側、	1910
21	一部）水島、水島町中島、水島町東側、水島町西側、	1910
22	一部）水島、水島町中島、水島町東側、水島町西側、	1910
23	一部）水島、水島町中島、水島町東側、水島町西側、	1910
24	一部）水島、水島町中島、水島町東側、水島町西側、	1910
25	一部）水島、水島町中島、水島町東側、水島町西側、	1910
26	一部）水島、水島町中島、水島町東側、水島町西側、	1910
27	一部）水島、水島町中島、水島町東側、水島町西側、	1910
28	一部）水島、水島町中島、水島町東側、水島町西側、	1910
29	一部）水島、水島町中島、水島町東側、水島町西側、	1910

水島コンビナートデジタルデータブックより

宇喜多堤 堤防A（船倉町近辺から酒津）の位置検証結果



(まとめ) 高梁川歴史探求コンテンツ作成手順



アイデアの実現へ

岡山県倉敷市× Kurashiki GIS LABO×まちケア運営チーム

目標は2023年度中のプロトタイプ教材開発

モノ

拠点・GISツール：倉敷市データ分析サロン
データ：国土地理院基礎データ、
オープンデータ、資料調査、
現地探査による収集

市民科学の場「データ分析サロン」

カネ

倉敷市市民企画
提案事業等

ヒト

地域の中学校・高校・大学の
生徒・学生、地域の歴史や防
災に関心ある住民、住民団体



※倉敷市では、実際にデータに触れて分析体験ができる市民科学の場として、分析ツールや教材等をそろえた「データ分析サロン（一般社団法人データクレイドル運営）」をJR倉敷駅前に常設し、自治体や地域企業等からの具体的なデータ活用相談への対応や技術支援を行っています。

地域の課題の理解、対応策の検討、意思決定や合意形成の場としても活用します。